

2005年7月 北海道遠征 ドジ&ラッキー集

日時 2005年7月22日～24日
遠征場所 イタンキ浜、モウライ浜、ルスツ
メンバー 島袋、加藤、榊枝、森、村松、
田中、原島、新木 (敬称略)

前夜祭 前に

シルバーイーグルスのからむ**海外遠征**「海を越える、つまり飛行機を使う場合」ドジは前夜祭からスタートするのが通例となっている。が、今回はその前から問題発生あり。個人的な事柄なれど、この会のメンバー構成から見て近々参考になる人が多そうなので報告することにする。

週初めすでにグライダーの発送を終え、前夜祭の準備に入り始めた村松にホームドクターから緊急呼び出しがあった。

“心房細動による脳梗塞防止方法を検討してもらうため女子医大を紹介したが、血栓防止確認として**ワーファリン**を使っているとのこと。この薬はいろんな意味で副作用が多く難しいものである。特に僻地にて怪我（内出血を含む）をした場合対応に遅れがでると大きな問題になる。**しばらくの間パラは中止**してください。これは常識です。” と1時間半にわたってお説教をくらった。

“すでにグライダーは発送済み、前夜祭の準備中 です。” とは言えず だまって“はい！” と返事して帰宅。しょんぼりしていると ピンポン とチャイム。

“**お世話になります！**” と元気な声と共に 新木 がやって来た。

(ここまで来たら引き下がれない。計画通り進むのみ。だ！)

前夜祭

伊東最長老も**八海山**もって前夜祭に飛び入り参加。

遠征には参加しないが前夜祭だけ参加の山口、前、前日中国から帰国したばかりの原島。そして最終到着の森（21時）、それから3時間後をお開きの目安とする。酒が入りだんだん楽しくなってきた村松に女子医大病院の担当医から電話あり。

“明日病院に来られますか？” “明日はちょっと旅行があつて駄目です！”

“では月曜日に必ず奥さんと一緒に来てください。” と、、、。

今回の前夜祭は酔えそうに無い。というわけで **これといったドジも無くお開きに。**

睡眠不足

小さな虫（蚊、ハエ、蜘蛛、ゴキブリ、、、）にも、**おびえて飛び上がる**新木。チラッと見つけた蜘蛛を退治してほっと安心、これで安眠できると喜んだが、隣の山口に相当悩まされたらしい。4時の起床になんの問題も無く起きられた理由は、寝てなかったためらしい。森、原島はぐっすり寝られたとのことだから、相当神経質なのだ。とてもそんな**細やかな神経には見えない**が、、、、（全員、そうだ、そうだ）

ヘルメットが「無いNO1」

空港の指定場所で待っていると “あ!!! しまった!” と声が出る。
“ヘルメットを忘れた!” “え?? どこに?” “車の中”
とあわてて取りに戻る後姿を見ながら、そういえばアヌシーでパスポートや現金、航空券を入れたポーチを地面の上に置いたままTOしたのも森だったな、スカイでフロントコンテナ忘れてTOしたという情報もあったな、と思い出す。今回の遠征も **忘れ物探し** が多くなりそうだ、、、

イタンキ浜にあわや散骨か

初日はイタンキと決定して現地に到着。風力、方向ともにいまいち。現地、長尾の助言にて一番高い丘からのTOとなった。数回の立ち上げなおし後、今度こそはと華麗な踏み切りをしたはずだが、熊笹とアクセルバーに足を取られ前方に頭から突っ込んだパイロット。間違いなくがけ下に落ちたと思った加藤は “あ!大丈夫!?” と声を上げる。行ってみると熊笹がしっかりと体を確保していた。その後フロントでTOする櫛枝にみな拍手。下の浜で平井さんが呼んだのかな?。

グライダーが担げない

今日のイタンキTOは下車後グライダーを担いで丘の上にまで上らなければならない。グライダーを持参せず観光に専念する予定の加藤がグライダーを担ぎながら上ってくる。その後を島袋が涼しい顔でついてきた。そういえば飯盛長老が “グライダーが担げなくなったら（パラ）人生終わり “ なんて言ってたなー（担ぐ距離はアサギリの小山+ちょっと 位だったけど、、、）

旨いけれどトイレが

イタンキの昼飯はいつもの通り **ピリ辛肉入りラーメン**。午後のフライト後あわててトイレに直行する村松。そういえば前回もこのラーメン食いすぎてトイレに駆け込んだ人が居たなー。ネー 会長。

キーが「無いNO2」

2日目の朝、朝食の10分も前に呼び出しに来た加藤、早すぎて一度部屋に戻り再度来ることになった。そのうち“キーが無い、こっちに置いていかなかった？”と探しに来た。また自室に戻り キー探しを開始、“無い、無い”を連発。“常識的なところにあるものだよ、原点に戻って探してみたら？”とアドバイス。“あった、あった、**ドアのキーホール**に差し込んだままだった！”だって。

ルスツかモウライか

ルスツは弱い北風であるが変わる可能性あり、モウライも北風。の情報で、モウライに賭けてみることになった。到着すると 山内、福田両氏がすでにお試しフライト済み。“いけるよ 今日は！ **端から端まで**” 選択は正しかった。

エロ岬

TO後、右に舵を切り、海岸線を行くと、絶壁が終わり、川がある。その先が海水浴場となっているが、このがけ下によくヌーディストが居る。海水浴場に挨拶するふりをしてフライヤーはこの最終崖でUターン、旋回しながら**幸運**を探す。今回は全員が、何回もこのチャンスに恵まれ挑戦したが幸運に恵まれた人は？でも、エロ岬命名の真実は、見に行ったフライヤーが **エロ親父** だったからとのこと、 今回もエロ親父がいっぱい いたことになる。
(元祖エロ親父は札幌の高校教師の藤本さん とのこと)

レスキュー、電柱、ガードレール

好条件を通り越し、少し強風となってきた (崖の先端で 6~7 m/s)
TOしてしまえば快適フライトとなるが、TOそのものが難しい。
駆け上がる場所が平地に近く、軽量フライヤーではグライダーが上がったとたん体まで持ち上げられてしまう。数回の再挑戦の後、本人体重のみでは無理と判断し村松の体重を少し分けてあげることになった (後ろから引っ張る)。
立ち上げ、振り向いた瞬間、“あ！ 反対だ！”。直前の立ち上げ後グライダー又は体がいつもの回転方向と逆に着地していたらしい。すでに空中に持ち上げられ正方向に回転したが勢いよく戻りすぎ、ライザーがクロスしたまま持ち上げられていく。海からの強風に押され、後ろの道路、電柱方向へと流されながら白いものがスルスルと伸びる。道路わきの電柱を補助している柱と電柱にかけられたワイヤーにグライダーがバサリとかかると同時にレスキューもきれいに開き、道路を横断し反対側ガードレールにまで届いている。パイロットは補助柱とガードレールの隙間に着地。“大丈夫？”と無線を入れるが返事が無い。“ドキ！”としたが返事が

無かったのは無線のスイッチが繋がっていなかったためらしい。

“怪我はありません！”の無線に皆ほっとしながら現地に駆けつける。

新木は何のためか、いったんカメラを取りに戻っている。

道路を横断し、トラックの通行を妨げているレスキューを巻き取り、グライダーをハーネスから外しているとバサリとグライダー本体がワイヤーからはずれ落ちてきた。山内、福田も急ぎランディングしてきたが 怪我なし と聞いて一安心。

早速、山内毒舌が始まる。“この電柱は 原島電柱 と命名する。SUSのプレートでもつけましょう “ と。

怪我なし（どこも痛いところ無し）、 グライダーの回収無し（自然に落ちてきた）レスキューのコンテナも近くにある、 レスキューリパックも自分で出来るなど心配項目が無くなるにつれ、みんなの毒舌が多くなってくる。で、ひとつ気がついたことがある。

“これからは、どこも痛くなくても、痛いふりをすれば、みんなの同情を買ってこの毒舌から少しは逃れられるのでは？ “ と、、、

本人談

周りで見ている人と、当事者ではちょっと違います。

真実を聞き取れば、 **酒、つまみを持って来られたし。**

どんなときでも **無傷で生き残る方法** もあわせ伝授いたします。

価値ある情報は **高価**ですよ！。

降りたいけど

ますます強くなる風の中、最後まで飛んでいた田中、トップランを何回も試みるが崖上まで来ると持ち上げられてLDできない。楽しそうに昼飯を取っているみんなを見ながらただ1人空中に浮かんでいる。 “安全な高台LDを案内しましょう”と福田がこの強風の中TOし田中機に合流。左方向に消えていった。

左崖方向に2機でフライトを楽しみ、田中機は高台にLD。

フライト時間？（ずいぶん長かったでしょう）そして 腹減った でしょう。

本人曰く、“LDしにくかったのは私の機体が空気抜けして無い証拠です。”

降りちゃいました

少し風が弱くなったので、重量機、新木がTO。続いて村松もTOを試みるが持ち上げられてしまう（やはり新木のほうが重量ある）原島の補助を受けこれも空中で回転しながらやっとTO。 恒例のエロ岬訪問を行った後、左側をとことん攻めてみることにした。1人で攻めている村松とすれ違いながら山内が“もっと行けるよ！”と合図を送ってくる。後で聞いたら“あの高さであそこまで攻めると帰りは苦勞す

るだろうな、面白いな！　きっとなんかあるだろう　と期待して、とわざと合図したんだ、“　とのこと　北海道のフライヤーほんとに親切だ。

“海水浴場内に降りると有料だ。電柱があるから高度は十分保持しなければだめ”などとプレッシャー無線がでる。確かに、海水浴場外に安全に降りるにはあの電柱は邪魔になる。　とうとうあきらめてUターンしLDする。回収を待つ間に福田、新木が飛んできた。　先頭を飛んでいる福田機のコース、高さは先ほどの村松機とほとんど同じ。　そろそろUターンしてLDするのかなと思っていたが、まるでその気配なし。　どんどん崖の中腹に突っ込んでいく。あんなところでどうやってLDするんだろうと見ていると、じわりじわりと高度が上がり始めとうとう崖の高さまで持っていき悠々とTO目指して戻ってしまった。後方の新木機は福田機よりも高度がありこれも悠々と戻ってしまった。

楽しみに待っていた、島袋、加藤、村松の3人は“愛想の無いやつだ！”と文句言いながらTOに戻ることにした。

福田曰く“帰り道はいろんな方法があるんです。今度教えます。”　とのこと。

でも、今夜の宴会後、福田機は見事に沈没し無事帰れなくなってしまうことになるとは、　神のみぞ知る。　山内曰く“グライダーがあれば帰れたんでしょうが、、”

いくらでも、どこでも

3日目、ルスツに向かう。ちょっと西交じりではあるがいい風が入っている。カメラマンの加藤をLDに残し全員が順次TO。一時渋いときもあったが雲の吸い上げなどの時は怖いくらい。　いやというまでフライトし本日はこれ1本にて終了することになった。

あ！雨だ！楽しいな

千歳に向かう途中、大滝村のお土産や（立派なログハウス）でポツリと雨が。今回は全てやりつくし、満足し、こんなタイミングで雨なんて、、、楽しいな。

携帯が「無いNO3」

車中で　“携帯が無いんだよ！”　と島袋。　呼び出して見るよ、と電話すると後方のバックのなかでかすかに　呼び出し音。　“あった。あった。”

満足会

千歳で出発を待つ間、当然一杯やることになった。今回は全てに満足反省項目無しここの支払いは原島が行うことになり、ますますみんな満足。

最後にやるのは

空港のセキュリティーチェックでいつまでたっても来ない人が居る。

ナイフ、鋏を持ち込み見つかってしまったらしい。 本人が怒っている。

“来るときは無事通ったのに、なぜ帰りだけだめなんだ！！”

“当たり前でしょ！！ 榊枝さん”

なぜこんなによかったの

こんなすばらしい条件に恵まれ全日程を終了できたのは なぜだろう？

1：心がけのよい者が集まった遠征だった、からか、

2：心がけの悪い者が来なかった遠征だった、からか、

この問題に関しては、後日報告会で検討することにした。

(会長、飯盛、山田 抜きに結論は出せないだろう、、、 いや 山口、武田も?)

後日談

25日、月曜日、カミサンと一緒に女子医大に行った村松、

“私の残り人生の半分はパラですから！” と強烈なアピールが功を奏し

“ワーファリンの使用はあと数年延ばしましょうか？

でも心房細動 + 加齢、高血圧、肥満、狭心症、心筋梗塞、糖尿病、タバコ

どれでも1個合併したら使います。なんかあった時は自己責任ですよ！ “ と

酒が項目に入っていないから恐る恐る聞いたたら、 “日本酒で1合まではいいよ”

(聞かなきゃよかった。)

パラの危険性もあるが、それ以外の危険因子を重視した担当医により

“あなたの場合、合併の危険因子に 悪友 を追加します” ときた。

なるほど、北海道の仲間たちには注意しなければならないと自戒。

でも、とりあえず、あと数年何とかかなりそうだ。

さて筆者の知る範囲の **ドジ&ラッキー** はこんなところ。

多分まだ隠している項目があるだろう。 白状する人が居たら ぜひ！！

台風7号の進路を横目に編集しながら、2日遅れたら前みたいにあわてて帰らなければ

ならなかった かも、 もう少し出発が遅れたら 地震の恐怖を味わったかも

とラッキーさを噛みしめている。

2005年7月26日 作製 村松昭宏

28日 修正